営農情報

第１０５号 平成２３年３月３０日発行

（麦）

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

１ 生育概況

播種後１２月末から１月までは低温傾向で、麦の生育は遅れました。２月の気温は高く適度な降雨もあったため、草丈は平年より短いですが、茎数は平年よりやや多くなっています。

茎立ちは３月に入ってからとなり、昨年よりも１週間程度遅くなりました。

出穂も平年より遅れ、昨年よりも１週間ほど遅くなると予想されます。

予想出穂期：	シロガネコムギ	４月１２～１４日
	ミナミノカオリ	４月１７～１９日

２ 赤かび病防除

小麦の防除適期は、出穂期から 7～10 日後の開花期です。ほ場ごとの生育を確認し、適期に防除するよう心がけてください。

防除適期　　４月１９～２４日頃（シロガネコムギ）

出穂前後に気温が下がると、出穂および開花が遅れるので、上記防除適期より遅くなることがあります。開花（白い葯が見える）を十分確認し防除を行って下さい。

薬　剤　名	１０ａあたり使用量	使用回数など
トップジンM粉剤DL	４ｋｇ	出穂期以降 ２回以内
トップジンM水和剤	1000～1500倍（液量100ℓ）	
トップジンMゾル	1000～1500倍（液量100ℓ）	
トップジンMゾル	８倍（０．８ℓ）	無人ヘリ防除

※出穂期に「降雨＋温暖」な気象条件が続くと、赤かび病が多発する恐れがあり、２回目の防除が必要になる場合があります。

※散布は、朝夕の風のない時に行いましょう。隣接ほ場に他作物が作付されている場合は、農薬がかからないよう特に注意して、飛散防止に努めて下さい。

３ 穂揃い期追肥

昨年産ミナミノカオリはタンパク質含有率が、許容値下限ぎりぎりでした。タンパク質含有率の向上が求められています。シロガネコムギで追肥一発肥料を使っていない場合、およびミナミノカオリでは、穂揃い期に１０ａあたり硫安１０ｋｇの追肥を行って下さい。

穂揃い期追肥は、赤かび病防除と同時の葉面散布も可能です。その場合は１０ａあたり尿素５ｋｇと農薬を、水１００ℓに溶かして散布します。なお葉面散布の場合、葉先や芒が若干枯れますが、登熟への影響はありません。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！